



進化する「街の科学者」薬剤師

「モノから人へ」の近未来ビジョン

高齢化社会の到来で医療ニーズが高まるなか、コミュニティを舞台に住民の健康を支える環境づくりが進んでいる。その主役となるのは、古くから地域住民の身近な健康の相談役として活躍してきた「街の科学者」薬剤師である。これからの薬剤師には何が求められるのか。日本薬剤師会・山本信夫会長への取材をもとにレポートする。

「薬剤ロス」解消へ 薬剤師の働きに効果あり

医師から処方された薬を飲みきらず、そのまま自宅などに放置して余らせてしまう「残薬」問題。日本薬剤師会が75歳以上の在宅患者への調査から推計したところ、その薬剤費のロスは、8年前で年間約475億円。高齢者が増えた今は、さらに膨らむものとみられている。加齢とともに病気が重なり、複数の医療機関から多種類の薬を出され、飲み忘れり、治ったからと服用をやめたりして、次第に管理できなくなっていく。それが残薬を生む主要因だ。薬剤治療は、処方された用量を飲みきることが大原則。勝手に中断すれば、症状の悪化や、他の薬剤処方への悪影響を招く恐れがある。政府も重く見るこの事態、改善に向けた薬剤師・薬局への期待は小さくない。全国に約

5万9000を数える薬局を「かかりつけ薬局」として転換し、処方箋や薬歴の管理、薬の重複・副作用の確認、健康相談など、患者一人ひとりに目が行き届く環境を整える方針を打ち出した。その主役となる「かかりつけ薬剤師」は、ときに患者宅を訪問し、飲み残しをはじめとする服用状況をチェック、問題があれば医師に相談して処方を変えてもらうなどの役目を果たす。すでにそうした薬剤師の活動は始まっており、患者宅まで訪問指導に出向いた薬剤師が、押し入れから実に30種類以上、1000錠を超える残薬を発見した例もある。

「街の科学者」の活躍で 地域の健康と医療に貢献

変わりつつある薬剤師の役割について、日本薬剤師会の山本信夫会長は次のように話す。「明治期以来、薬剤師は『街の科学者』とも呼ばれ、調剤や服薬指導、医薬品・消費液など

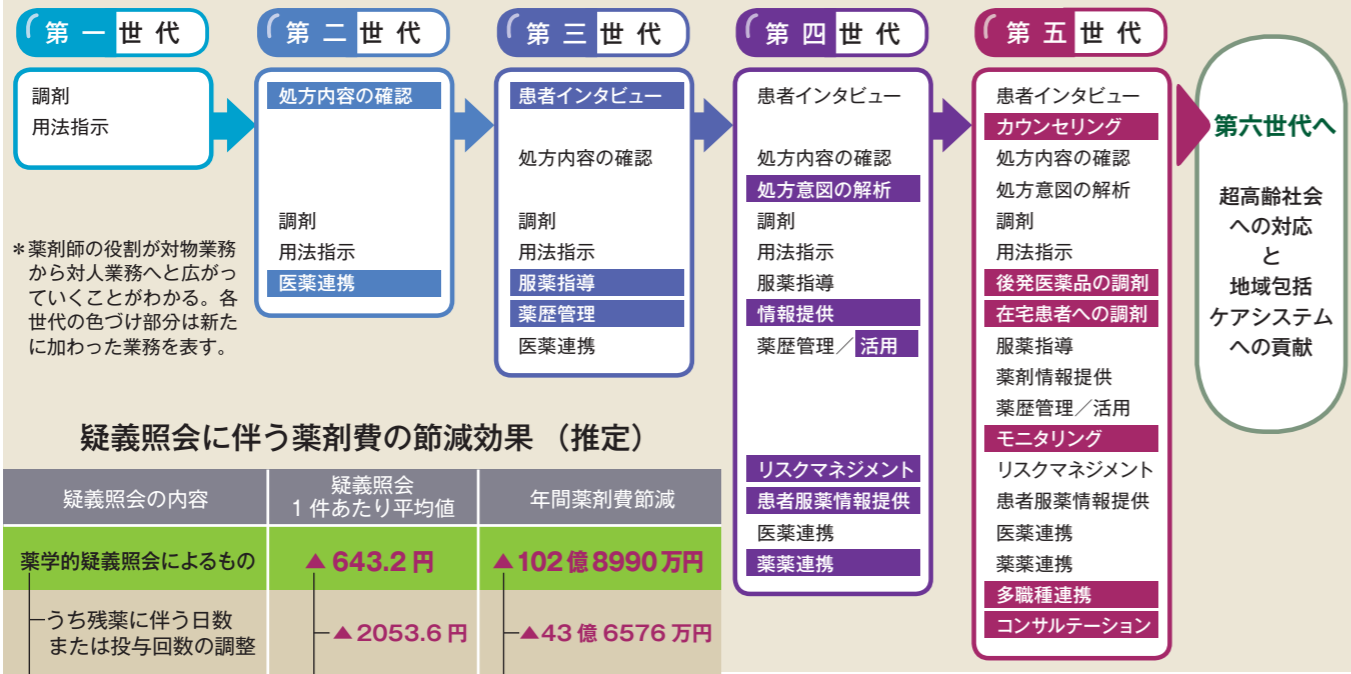
の医療衛生材料の販売を行うだけでなく、地域住民を相手に健康相談・生活指導を行うなど、地域医療の一翼を担う存在でした。求められているのは、その原点への回帰と言えます」

処方箋受取率（医薬分業率）が7割を超えた今、「薬剤師＝医師の処方箋に従って調剤する人」といった印象が強まった感がある。しかし、医薬分業の本来は、患者が使用する薬剤の有効性や安全性を相互に確認することであり、薬剤師には医療人としての目が必要なのである。

例えば、医療人として薬剤師の一面を表す仕事に「疑義照会」がある。処方箋に疑問点や不明点がある場合、薬剤師が医師にその是非を確認する行為を言う。東京理科大学薬学部の調べによると、年間約8・1億枚の処方箋に対する疑義照会率は約2000万枚、うち7割超で、薬剤師の指摘をもとに処方変更されていた（平成27年度）。推定される薬剤費の節減効果は約103億円に及ぶ（図参照）。

そうした薬剤師の専門性をより高めるため、大学の薬剤師養成課程は2006年度より6年制に移行、医療薬学に関する教育や、病院・薬局での長期実習が加わっている。

薬局における調剤業務の変化



*薬剤師の役割が対物業務から対人業務へと広がっていくことがわかる。各世代の色づけ部分は新たに加わった業務を表す。

疑義照会に伴う薬剤費の節減効果（推定）

疑義照会の内容	疑義照会1件あたり平均値	年間薬剤費節減
薬学的疑義照会によるもの	▲643.2円	▲102億8990万円
うち残薬に伴う日数または投与回数調整	▲2053.6円	▲43億6576万円
相互作用に関する調整	▲202.4円	▲2119万円

出典：平成27年度全国薬局疑義照会調査（東京理科大学薬学部 鹿村恵明教授）
*金額は薬価ベース、処方せん枚数は8.1億枚（平成26年度）で計算



長期投与、掛け持ち受診などで薬剤の量と種類が増加、飲み忘れ・飲み残しなどにより大量の残薬が生じている。

2025年のその先へ
拡がる舞台、進化する役割

団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に向けて、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を構築することが、日本の戦略だ。かかりつけ薬剤師・薬局もここに位置づけられ、またその発展形として、所定の研修を受けた薬剤師が、在宅医療への対応や時間外対応、各種生活相談を含め、他の職種や機関とも連携しながら地域住民を支える「健康サポート薬局」の推進にも取り組んでいる。

そのとき、地域へと軸足を移した薬剤師の役割は、調剤・販売主体の対物業務から、住民・患者を支える対人コミュニケーション業務へと変容しているだろう。

医療人としての薬剤師の活躍を応援しています

Message



日本薬剤師会 山本信夫会長

全国で活動する薬剤師は約30万人。このうち約10万人が、薬剤師の職能団体である日本薬剤師会の会員です。当会は、日本医師会、日本歯科医師会とともに「三師会」の一角として薬業・医療の発展に努めていますが、薬剤師に求められる職能の拡がりとともに、当会の活動範囲も拡大しています。医薬分業や、かかりつけ薬剤師・薬局、健康サポート薬局の推進をはじめ、禁煙、アンチ・ドーピング、薬物乱用防止、災害対策などの活動にも傾注し、薬学を修めた唯一の医療人である薬剤師の活躍を後押ししています。